

令和2年度

しが発低炭素ブランド認定式 滋賀県低炭素社会づくり賞表彰式



日時	令和2年12月16日(水) 13時00分から13時20分まで
場所	滋賀県公館(大津市京町四丁目2番15号)
次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会(滋賀県知事挨拶)2 制度趣旨・選考経過・認定製品および受賞者紹介 (しが発低炭素ブランド認定2社、滋賀県低炭素社会づくり賞2社)3 認定証・表彰状の授与 (しが発低炭素ブランド認定2社、滋賀県低炭素社会づくり賞2社)4 記念撮影5 閉会
出席者	<ul style="list-style-type: none">●しが発低炭素ブランド2020認定事業者(順不同・敬称略) 関西保温工業株式会社 代表取締役社長…森 伸一 株式会社ダイフク 執行役員 滋賀事業所長…喜多 浩明●令和2年度滋賀県低炭素社会づくり賞受賞者(順不同・敬称略) 立命館大学 BKC 地域連携室長…田畑 泉 トヨタ紡織滋賀株式会社 代表取締役社長…秋田 哲靖●滋賀県 滋賀県知事…三日月 大造 滋賀県琵琶湖環境部長…石河 康久 滋賀県琵琶湖環境部温暖化対策課長…天野 孝志

変わる滋賀 続く幸せ -Evolving SHIGA-
技術革新により「CO2ネットゼロ社会」の実現へ

SDGs未来都市・滋賀



滋賀県は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

令和2年度 しが発低炭素ブランド認定式 滋賀県低炭素社会づくり賞表彰式



関西保温工業株式会社（守山市）

小口径配管エルボ保温材「ピタットエルボ」

- 新開発の無機多孔質保温材を用いた最高使用温度1,000°Cのプラント配管保温材。
- 「継ぎ目」や「隙間」の少ない密着構造により、高断熱化を実現。
- 従来の保温材では対応困難なサイズ、形状にも対応が可能。
- ワンタッチ取り付けで、現場での施工時間、清掃時間、廃棄物の発生を大幅に削減。
- 「熱を逃さない」をモットーに各種プラントの省エネルギー化を支えます。

CO₂削減効果29.3t-CO₂/年2019年度出荷分（延べ外表面積948㎡）の削減貢献量。
従来の手加工けい酸カルシウム保温材との比較。

株式会社ダイフク 滋賀事業所（蒲生郡日野町）

パレット自動倉庫スタックークレーン「ラックマスター（Rシリーズ）」



- 大型倉庫等でパレット単位の製品や部品を自動搬送し高層ラックに保管・取出を行うユニット式の自動ラックシステム。
- パレットを自動で入出庫する「スタックークレーン」を独自の制御技術と本体軽量化により、省エネ化、高速化を実現。
- 柔軟なレイアウト、倉庫だけでなく、生産ラインへの部品供給など多様な使用方法、防爆・耐油仕様、耐震構造など多機能を搭載することで、物流の省人化、高速化、低炭素化を支えます。

CO₂削減効果146.7t-CO₂/年

同社従来機との比較。

立命館大学びわこ・くさつキャンパス（草津市）

●空調熱源改修による省CO₂

キャンパス内建物の空調に使用する中央熱源設備について、従来のガス吸収式冷温水機3台を空冷ヒートポンプチラー10台とガス吸収式冷温水機2台に更新。CO₂排出量で30%以上の削減を達成。また、機器の冷却に高効率空冷ヒートポンプチラーをベース使用するとともに、BEMS（ビル・エネルギー・マネジメント・システム）の導入やエネルギー管理体制の改善によりエネルギーの効率的な利用に取り組んでいる。



●立命館地球環境委員会等を通じた啓発活動

「立命館サステナビリティ学術センター」と共催で開催している「立命館地球環境委員会シンポジウム」において「サステナブルキャンパス・アイデア・コンテスト」を開催。毎年、立命館学園の学生・生徒・児童から環境啓発に関するアイデアを募集し、優れたアイデアの具現化を支援。これまでマイボトルの配布や省エネの掲示等を実施。また、学生の主体的な取組として「Sustainable Week」を毎年開催。ディスカッションや体験イベントなどを通じ、SDGsの理解促進や低炭素社会づくりに関する啓発を実施。

トヨタ紡織滋賀株式会社（甲賀市）

●毎年コンセプトを掲げた

全員参加での環境道場の運営

「エア漏れを発見・対応・修理する訓練」やフィルター箇所をMAP化し点検する「全社フィルター清掃漏れ撲滅活動」など、環境道場から広げる投資「0」の知恵と工夫で全員参加省エネ活動を実施。

●バンパ塗装工程の塗布改善による

生産効率の向上

揮発の早いオリジナルシンナーに改良し、手作業で行っている塗布工程において、最適塗布条件確立に向けたトライを段階的に実施することでクリア工程を2人から1人作業へ変更。更にベース工程の塗布作業改善を実施し、人は増やさずに工程全体としての生産性を大きく向上させ、設備稼働時間の大幅短縮につながった。



●「1」分に拘った生産立上げ時間短縮による省エネ

いかに早く日々の生産を開始するかをバックキャストで考働し、生産に含まれない時間をミニマムにすることで、ムダなエネルギーの削減につなげています。